

安田 あゆ子

YASUDA, Ayuko | 大学院医学系研究科
ASUISHIプロジェクトリーダー

医療の質と安全を高める 志を持った医師を全国へ

医療は時代とともに進化を遂げ、患者さんの治療には多くの専門家が関わるようになってきました。しかし、病院は専門家の集団であるがゆえに、組織全体としての医療の質については議論が深まってきませんでした。そんな中、名古屋大学医学部附属病院では、2006年に設置した医療の質・安全管理部などからなる医療基盤部門を中心に、全国に先駆けて医療の質・患者安全の向上に力を入れてきました。この取り組みを全国の病院に普及させるには、核となる医師を育てる必要があります。そのために立ち上げたのが、「明日の医療の質向上をリードする医師養成プログラム (ASUISHI)」*1です。

その特長は、医療を取り巻くさまざまなステークホルダーを意識しながら、高い評価を得ている本院の医療安全のノウハウとともに、トヨタ自動車の世界に誇る品質管理の考え方や改善手法が学べる点に

あります。客観的でサステナビリティを重視したトヨタの手法は、日々の臨床業務を改善科学という学問領域に引き上げるのに不可欠で、既に海外の医療安全分野では一般的。英語の文献に学ぶこともできますが、地の利を活かしてトヨタと連携し、ダイレクトに学べるカリキュラムを構築しました。

また、学びを一過性のものとせず、プログラム修了生を継続支援する仕組みとして、人材ハブセンターも立ち上げました。修了生が自分の病院に戻って医療安全・質管理を実践する際には、さまざまな壁にぶつかるはず。そこで、いつでも気軽に相談ができ、受講仲間とつながり合える基地を設け、データ共有など情報交換を続けていきます。

ASUISHIを一般化し 社会の共有財産に

2015年10月に開講したASUISHI第1期には、全国から志の高い中堅以上の



名古屋大学大学院医学系研究科博士課程修了。医学博士。2006年から東海北陸厚生局に出向するかたわら、名古屋医療センター呼吸器外科に勤務。現在、名古屋大学大学院医学系研究科ASUISHIプロジェクトリーダー。

医師が集まりました。メインコースでは、患者さんの取り違え防止や感染率の低下など各医師が自分の関心のある問題についてトヨタの品質管理専門家と議論し、最終的には問題解決プロセスを発表。E-learningも含めた約140時間にわたる充実した学習は、受講生に好評を得ることができました。もちろん、今後もカリキュラムは改善する必要があり、社会への波及効果や病院内の意識変化も確認していかなければなりません。そのための評価方法を検討しているところです。また、ASUISHIは本研究科の事業ですが、いずれは社会の共有財産にしたいと思っています。例えば、今や当たり前となっているエビデンスに基づいた医療も、最初にそういう考え方を提唱した人がいるわけです。それを思えば、10年後にASUISHIという名称が医療の質や安全を管理する考え方として一般化するのも夢ではありません。ただ、一般化するにはステークホルダーの一角としての患者さんの参加が重要です。医療機関は科学的なデータに基づく正しい情報を提供し、ステークホルダーのためという目的を実現する必要があるでしょう。やるべきことは山積していますが、かけがえのない人の命を預かっているという認識をもう一度高め、メンバーと力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。

名大医学部とトヨタが連携し

医療の質をKAIZENする



※1 / ASUISHI
文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択された事業。トヨタグループと連携したメインコースと、患者安全もしくは感染制御に特化した2つのインテンシブコースを用意。2016年3月には、第1期受講生の修了式が行われ、修了生は引き続き人材ハブセンター事業に参加する。